

## 平成24年度 附属学校研究支援経費 による研究成果概要報告書

報告者氏名・所属	奥崎 敏之 附属函館中学校副校長
研究期間	平成24年 4月 ～ 平成25年 3月
プロジェクトの名称	学習の評価に関する情報の電子的な蓄積と、その利用に関する研究2
プロジェクト担当者 (氏名・所属・職) ※代表者に○を付す こと	羽根田秀実 函館校教授・附属函館中学校長 ○奥崎 敏之 附属函館中学校副校長 宮野 健 教諭 松下 賢 〃 張石 卓司 〃
成 果 の 概 要	
<p>本プロジェクトでは、生徒の思考力・判断力などの高次な学習活動を記録し評価するための新しい手法の開発を平成23・24年度の2年間の取組で目指した。この取組では生徒の作品やテストの結果を pdf 形式のファイルとして蓄積したり、昨年1月よりより NTT から貸与されているスマートホン（タブレット PC）の動画撮影機能を使ったビデオ映像を評価情報として利用する試みを行い、電子的な記録の有効性についての検証を行った。</p> <p>24年度は、23年度に取り組んだ生徒のテストやレポートなどのカラーの pdf 形式のファイルによる電子的保持のデータから、生徒の学習の躓きなどを遡って確認できることなどについて検証を深めた。</p> <p>また、平成24年度は、こうした紙による情報に加えて、スマートホンの動画撮影機能を活用したビデオによる生徒の発表風景などについても評価情報として蓄積することに取り組んだ。</p> <p>この試行は、3年生の数学科における図形の論証の説明場面などで、生徒をペアとして片方が発表者、片方が撮影者となりその説明をビデオ撮影し、評価記録とした。</p> <p>従来の授業では、数名の生徒を黒板の前に出させて発表をさせ確認する、あるいは、プリントを用いた生徒の相互評価などがこうしたケースでは多く用いられてきたが、ペアに1台、動画撮影機能を有したタブレット PC を用意することにより、実際に発表している様子が収録でき、教師も授業後にその映像を確認できることや、発表の様子を経年集めることにより、次第に発表する力が成長していく証左として、この映像を電子的なファイルで蓄積していくことが可能となることが分かった。</p>	
成 果 の 公 表 の 状 況	
<p>国立教育政策研究所の指定研究として、評価の研究を23・24年と2カ年に渡って取り組み、24年度は、附属函館中学校の研究会の公開授業や教科別分科会などで、映像を使った評価情報の有効性や蓄積方法について発表を行った。</p>	
教育現場で活用可能な分野等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科のテスト結果の記録、ノート（A4版までのルーズリーフ）やレポートなどの記録</li> <li>・各教科での発表場面について動画収録し、発表の内容やスキルの確認、発表の力の成長を証左するためのポートフォリオに収蔵するエヴィデンスとして活用</li> </ul>	
配付可能な資料の有無	・配布を目的とした資料は特段作成していない。（学校訪問などの依頼や、電話、メール等による問い合わせは可能）
ダウンロード可能なドキュメント	・特に Web などで公開していない。
問い合わせ先	<p>責任者：奥崎敏之（副校長）</p> <p>電 話：0138-46-2233</p> <p>F A X：0138-47-6769</p> <p>mail : hak-fuchu@h.hokkyodai.ac.jp</p>